

平成１７年度 秋期 プロジェクトマネージャ 午後 解答例

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問１ 〔出題趣旨〕

情報システムの開発にあたっては、プロジェクトマネージャの管理下にあるメンバ以外に、プロジェクトの進行に応じてかわりをもつプロジェクト関係者との十分なコミュニケーションが重要である。

本問は、これらのプロジェクト関係者の中で、決定の権限をもつ関係者や問題の発生に応じて支援を依頼する関連部門の責任者などを重要な関係者と認識し、それらの関係者とのコミュニケーションの内容や方法について、個別に工夫した点を含めて具体的に論述することを求めている。

本問では、論述を通じて、プロジェクトマネージャとして有すべきコミュニケーションに関する知識、重要な関係者とのコミュニケーションの能力や経験などを評価する。

* ----- *

問２ 〔出題趣旨〕

プロジェクト計画では、スコープ定義段階で作成されるタスク構成（WBS）を基に資源や要員の計画を行いながらスケジュールを作成し、稼動開始時期を定める。しかし、現実には、プロジェクトの開始段階でビジネス上の理由から既に稼動開始時期が決まっている場合も多く、プロジェクトマネージャは、このような場合、種々の調整を行って稼動開始時期を満足させなければならない。

本問は、稼動開始時期を満足させるためのスケジュールの作成にあたって、タスクの内容や構成、タスク実施順序の調整などによって実施した経験と、その中で工夫した点を具体的に論述することを求めている。

本問では、論述を通じて、スケジュールの作成におけるプロジェクトマネージャとしての経験や見識、調整能力などを評価する。

* ----- *

問３ 〔出題趣旨〕

プロジェクト遂行中のトラブル対応は、プロジェクトにとって重要な課題であり、チームの再編成によって解決を図る場合、その影響を十分に検討し慎重に取り組む必要がある。

本問は、プロジェクト遂行中に発生した問題に対し、原因分析の結果、チームの再編成を実施することによって問題に対処できると見極めた理由と再編成の内容、及び再編成後の問題改善に対する効果の確認について、具体的に論述することを求めている。要員追加や一時的な応援などでの問題対処についてだけ論述することは、出題の趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、プロジェクトマネージャとして有すべき組織要員計画・組織要員管理に関する知識、プロジェクト遂行の予見能力、洞察力などを評価する。

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。